

序

平成26年度はりんくう総合医療センターが地方独立行政法人化してから4年目、そして大阪府立泉州救命救急センターと統合後、2年目の年でしたが、救命診療科と専門診療各科との協働作業は、入念な準備作業を行って窓口を一本化した脳センター、心臓センターのみならず、多くの診療科で円滑な連携診療が実現し、二つのセンターの統合効果が明確に意識できた年となっています。さらに、前年度からの看護師増員などの効果が伴い、徐々に円滑な病床管理と安定した稼働率の維持が可能となり、多くの診療科において医療の質と量の向上がもたらされました。一方、診療報酬改定と同時に消費増税が実施された年で、運営面では何かと緊張感のある年度でもありました。

また、当センターは特定感染症指定医療機関としてギニアから発熱を伴うエボラ出血熱の疑似患者の入院を受け入れるという、大変インパクトのある出来事がありました。この患者さんは幸い陰性でしたが、発足して間がない総合内科・感染症内科の医師をはじめ、感染症認定看護師や検査技師などの感染症センター関連職員が、迅速、かつ的確に対応し、当院にとっては大変貴重な経験を積み上げた年でもありました。

さらに、年が明けた平成27年2月1日には、念願の「りんくう教育研修棟」の完成式典と内覧会を取り行うことができ、この年度最大のイベントになりました。この建物の2階部分には泉州南部地域のこれからの医療を支える医療従事者の育成を目的として数多くのシミュレーション機器を常備した「泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター(サザンウィズ)」を設置しました。また、3階には最大300余名を収納可能な大会議室などを有し、少し手狭になりつつあった病院に新たな活気をもたらした年でもありました。これからこの施設が、当センターの職員はじめ、医療関係者の教育・研修のみならず、この地域における多くの研修イベントに広く利用されることを期待しております。

様々な施策と共に急速な医療改革が進められている中、南泉州地域における新たな、そして良質な地域医療の構築に向けて、皆様方とさらなる連携を深め、より良い医療環境を整えるべく、今後とも邁進する所存です。

この地域で日頃からお世話になっております方々、また、何かとご支援を頂戴している大学、諸機関の方々、今後とも引き続き、ご指導とご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

理事長 八木原 俊克